

口頭発表

[B] 分類・形態・組織

2024年3月29日(金) 13:30 ~ 18:00 B会場 (萩)

17:00 ~ 17:15

[B-25] イネカメムシ（カメムシ目：カメムシ科）の設置卵塊からチャバネクロタマゴバチ（ハチ目：タマゴクロバチ科）を発見

○境 侑花¹、佐々木 郁弥^{2,3}、住田 歩夢³、平江 雅宏²、米田 洋斗⁴、東浦 祥光⁵、藤岡 龍生¹、松尾 和典⁶ (1. 九大共創、2. 農研機構、3. 鳥取大院、4. (株)クボタ、5. 山口農総セ、6. 九大院比文)

イネカメムシ(カメムシ目：カメムシ科)は、国内では関東以西の全国に分布する斑点米カメムシ類の一種である。近年その被害は拡大しており、基礎的な生態情報の蓄積が重要な課題となっている。2023年8-9月、茨城県と山口県の圃場に設置したイネカメムシ卵塊から3種の *Trissolcus* 属寄生蜂が採集された。形態観察の結果、*Trissolcus* sp. 1は未記載種と考えられた。*Trissolcus* sp. 2は、中体節及び後体節の形態的特徴からチャバネクロタマゴバチ *T. plautiae* と同定された。チャバネクロタマゴバチはチャバネアオカメムシ（カメムシ目：カメムシ科）等の果樹カメムシ類の主要天敵卵寄生蜂として知られる種である。*Trissolcus* sp. 3は、オス1頭のみが採集されており種レベルでの同定は見送ることとした。次に、*Trissolcus* sp. 1と *Trissolcus* sp. 2のミトコンドリアDNAのCOI領域を解析し、データベースに登録された情報と比較した。その結果、*Trissolcus* sp. 1は *T. elasmuchae* の登録データと一致したが、形態的な差異が認められており、更なる調査が必要であると考えられた。*Trissolcus* sp. 2はチャバネクロタマゴバチの登録データと一致した。